

中 川高同窓会報

埼玉県立川越高等学校同窓会
〒350-0053 川越市郭町2-6 川越高校内

【同窓会】電話・FAX (049) 225-9071 (HP) <http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>
【学校】電話 (049) 222-0224 (HP) <http://www.kawagoe-h.spec.ed.jp/>

特集 「くすのき交流会」が始動 ～成果・課題・これから



目次

特集 「くすのき交流会が始動」

～成果・課題・これから～……………2～4

会長・校長挨拶……………5

報告 本校にも「共学化」の意見聴取 (同窓会では異議唱える

「意見書」を提出)……………6～7

地区初雁会の新会長挨拶、

同窓会役員会を開催……………8

「くすのき未来塾」開催……………9

「川高初雁の森」植樹料納入者

総会記念講演 和田雄二氏……………10

文化講演会 松藤千弥氏……………12

「くすの木俳句大会」のご案内、

「くすの木囲碁クラブ」の活動

終身会費納入者(令和5年度)、

植樹祭・秋季散策会の報告……………14

令和5年度事業報告・会計収支、

令和6年度事業計画・予算案

新聞部長の寄稿「在校生から見た

川高の1年」、人事異動……………16

「川高サイエンス探究事業」

大学等入試合格状況一覧、部活

動の主な活躍……………18

叙勲・褒章受賞者、秋季散策会

のご案内、寄贈図書……………19

総会・記念講演のご案内

講師 花岡達也氏

編集後記など……………20

特集

「くすのき交流会」が始動
報告文に見る成果・課題・これから

世代を超えた同窓生間のネットワークづくりを目指し、新たな出会いの場として企画された「くすのき交流会」。晴れて第1回が開催されました。特集では、参加者の反応や感想・意見から見える成果・課題・これからについて、会の企画・立案・運営にあたる「企画運営委員会」の報告文を紹介します。

交流会当日の流れ

第1回「くすのき交流会」は「国の内外の幅広い分野で活躍中の同窓生や経験豊富な同窓生が一堂に会し、先輩・後輩の枠を超え、母校・くすのきの下で過ごしたころの話題を基に、質の高い異業種交流などを通して多様な情報交換を行う」とともに、今後の夢を語り合うなどしながら、同窓生間のより一層のネットワークづくりを「目指す」とが目的。



令和5年
12月16日
(土) 午後

同窓会副会長(高8)が主催者挨拶、小出和重校長の来賓挨拶後、応援部現役生徒による演舞と続きました。

3時から、東京丸の内にある明治安田ホール(一般利用可のレンタルルーム)を会場に開催された会には、167人の同窓生が参加しました。

最寄り駅より会場までの案内には、各地区初雁会の推薦を受け運営に携わっている同窓生役員が紫色の腕章を着けて立ち、参加者を迎え、会場では定刻前よりあちこちで参加者の輪ができ、早速交流が始まっています。会は山本浩法政大学教授(高24、元NHKアナウンサー・解説委員)の総合司会で始まり、会場内の多目的ホール椅子席での開催セレモニーでは根岸秋男同窓会長(高29)、岩堀弘明元

交流会募集方法を追加

今後の夢を熱く語り始めると参加者から熱い声援が。降壇後には複数の参加者が彼の回りで名刺交換。限られた時間内に、このような名刺交換を伴う交流があちこちで行われていました。

同窓会副会長(高8)が主催者挨拶、小出和重校長の来賓挨拶後、応援部現役生徒による演舞と続きました。

その後、多目的ホールに隣接する交流会場へ移動。梶田隆章東京大学卓越教授(高29)による乾杯の挨拶(写真・上)を契機に、各参加者は近い卒業回期ごとに割り振られたAからHまでの8ベーステーブルを基点にして、くすのきの下で過ごしたころの話題から互いの情報交換へ。時には名刺交換を交えながら和やかな雰囲気の中で自由な交流が続ぎ、充実した時間を過ごし同5時に閉会しました。

交流会場内で立食形式での交流が終盤になるころ、中島涼輔氏(高62)が知り合いの先輩に推されて中央ステージに登壇し、自身の起業した経緯から現在の状況説明を経て

第1回「くすのき交流会」の参加募集は、2023(令和5)年4月22日発行の「川高同窓会報(第79号)」での特集掲載と、同封した「参加申込はがき」により開始。募集当初より参加希望者が伸び悩んでいたため、7月3日より同窓会ホームページに「くすのき交流会」に関する「号外」を掲載、同画面上よりURLかQRコードから申し込みフォームに直接アクセスできる方法を追加採用。同時に各学年同窓会や部活動OB会などの定期的に交流している同窓生間のネットワークを通して多方面への情報発信を依頼したことにより参加希望者が着実に増加しました。

最終的には希望者が募集定員を上回る結果となり、その後の応募はお断りするなどご



参加者への情報提供

迷惑をかける事態となりました。今後の同窓会活動を充実させていく上で、全同窓会員への情報発行やホームページ上の情報発信だけでは不十分で、身近なソーシャル・ネットワーキング・サービスを活用し、いかにして各同窓会

「くすのき交流会」への参加者には、申込時に住所・緊急連絡先の他に「卒業回期」(参考:令和6年3月卒業生は「高76」)「所属会社・団体名」

員の手元まで価値ある情報を届けることができるかが肝要であることを改めて痛感しました

「業種・職種」「役職」及び「在校時部活動」の記入を依頼。当日は参加者全員に対し、「参加者名簿」として各参加者の「ベーステーブル」記載の他、「卒業回期」以下、「所属会社・団体名」などの個人情報一覧表を作成し、交流の資料として配付しました。

既に第一線を退いている経験豊富な同窓生の中には、「所属会社」等の個人情報記載なしの「参加申込はがき」が散見できました。当日配付する「参加者名簿」中に掲載したさまざまなデータが交流の糸口になるのではとの考えから、それらの方には直接電話等で「元所属会社」等、無理のない範囲での個人情報の提供をお願いしました。なお、多くの参加者が「在校時部活動」の記載について高く評価。交流会終了後に「年代が離れている参加者同士が同じ部活動の先輩・後輩であることを確認し合うことから交流を深めることができた」との情報が多々あり、川高在校時の思い出としての部活動の重みを再確認するとともに今後の企画の参考になりました。

実施後アンケートの結果

「くすのき交流会」企画運営委員会では、当初より、一般的に仕事や子育てが生活の中心である比較的若手となる同窓生に有意義な会となるよう企画。交通の便の良い東京での土曜日開催・比較的廉価な会費・夕刻には閉会、などはそのような趣旨からのもので、アンケート結果から見ると「満足」の回答が9割を超えました(グラフ・次頁右)。

当日は経験豊富な同窓生にも趣旨に賛同し参加してい

若手参加者の意見・要望など

若手こそ参加してほしい

先日、緊張しながらも参加した「くすのき交流会」では、私はなんと最若手でした。私がこの場をお借りしてお伝えしたいことはただ一つ、「若者こそ、この会に参加してほしい」という想いです。

若いから・部活動が一緒だったから・ネクタイが良い感じだから・名前が「龍之介」でなんかカッコいいから、何か見つけて話し掛けてくださる先輩がたくさんいらっしゃると思います。そして先輩方との会話は、数年後、数十年後の自分が何を考え、

選り・行くべきかを考えるきっかけ

をくださいましたし、社会に出て意識せず狭まっていた視野を、グッと広げてくれたような感覚がありました。

色々なキャリアを歩まれている方がいらつしゃるので、社会に出て間もない方には特に勧めたいです。これを読んだ一人でも多くの方、特に若い皆様と、第2回くすのき交流会でお話しできることを心から楽しみにしています。

志村龍之介(高67・三菱総合研究所 コンサルタント)

若手の参加・周知・参加費が課題

川高生には枠にはまらない勢いがあります。弓道部時代の仲間を見ても、面白いことをしている人が大勢います。新入社員の私が「くすのき交流会」に参加したのは、もつと世代を超えて「川高の卒業生は社会で何をしているのか」に興味があったからです。

会場では多くの大先輩と出会うことができ、私も負けれないと刺激を受けました。後日、うれしいことにこの会で知り合った方と一緒に仕事をすることもできました。普段は見えづらい川高生のつながりを広

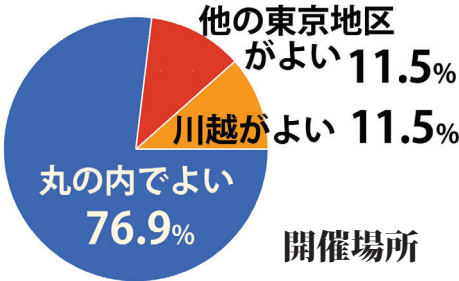
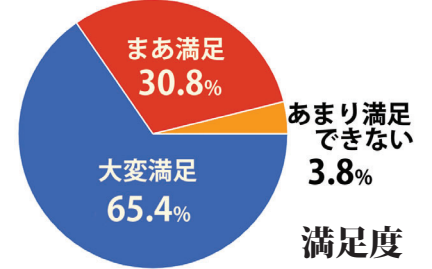
げられる素晴らしい企画でしたが、若手の参加がとても少なかつたのは課題です。

次回に向けて改善するなら情報発信と参加費でしょう。私の周りで同窓会報に目を通す人はほぼおらず、SNSなど私たち世代が使っている手段での告知が必要です。参加費は高く、一企業の社長から大学生まで一律8千円というのは、特に若手に負担が大きいです。

若い世代が来やすい環境が整えば、さらに活気のある交流会になるでしょう。

神山美輝(高67・日本経済新聞 記者)

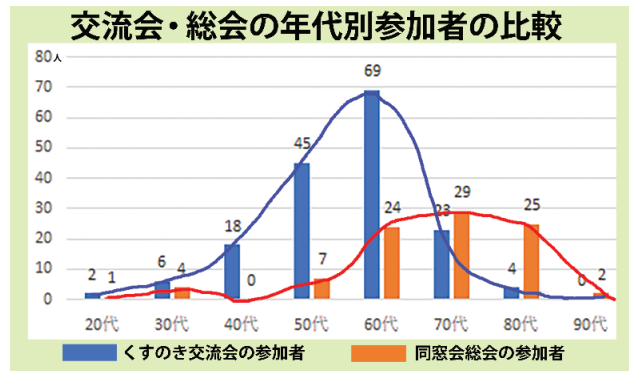
ただき、西島昭三氏(高6)に最年長同窓生として挨拶を頂戴。しかし、募集時から、「第一線を退いている同窓生を除外するよな企画なのか」との指摘を頂戴し、困惑もしました。掲載したコラム「若手参加者の意見・要望など」(前ページ左)から、若い参加者にとつて国の内外の幅広い分野で活躍中の先輩や経験豊富な先輩との交流が貴重な経験や刺激となることが指摘されています。このことから「くすのき交流会」の今後を展望する上で、経験豊富な同窓生の参加が不可欠であることは言うまでもありません。また、アンケート結果の中で、「川越で」「仕事の交流が趣旨だと、今後は参加の動機にならない」等のご指摘を頂いています。が、前述したとお



り本会を開催する上でポイントと考えている企画内容について、あらためてご理解いただきたいと考えております。

当日参加者の年代別層は、毎年5月最終日曜日に川越で開催している同窓会総会時の参加者と比較すると、若い年代の層への変化が見えます(グラフ・下)。今後、本会開催の趣旨を踏まえ、経験豊富な同窓生の継続した参加について積極的にお願いする取組とともに、参加者全体としての年代別層をより若い年代の層へと拡大させて行くことができるよう、若い参加者にとつて有意義な企画内容を工夫する取組が必要であると考えています。

なお、主催者側の都合で開催日が年末になってしまったこと、また、開催セレモニーの内容や



- 1 もう少し早い時期での実施を希望(複数あり)。
- 2 多目的ホールでの企画やその時間的配分について交流会の趣旨に沿う内容検討が必要。
- 3 交流会場が狭いため、多目的ホールやその他の交流スペースの有効活用が不可欠。(身近な範囲で和気あいあいと交流ができ、会場が狭いとは思わないとの意見もあり)
- 4 交通の便や会費との兼ね

- 5 立食形式での飲食物の内容や提供箇所等の工夫が必要。
 - 6 継続開催への要望(複数あり)。
- 「くすのき交流会」企画運営委員会では、頂いた意見を参考にして、次回開催に向けて検討を開始しました。また、アンケート回答者が全参加者の16%と低く、原因は当日会場内でのアンケート記入・回収は困難と判断し配付した資料に掲載したQRコードより後日アクセスし、回答していただく方法を採用したためと考えています。本会を充実させ継続して開催していく上で適切な評価は欠かせません。「くすのき交流会」企画運営委員会ではアンケート等による評価方法についても改善に向け検討します。

第2回「くすのき交流会」ご案内・申し込み方法

- 日時：令和6年11月30日(土)午後3時～5時
- 受付開始 午後2時
- 場所：明治安田ホール 東京都千代田区丸の内2の1の1(東京駅より徒歩5分)
- 募集人数：180人(希望者多数の場合は先着順)
- 参加費：8千円(30歳代までは7千円)
- 募集方法(以下のどちらかの方法でお願いします)
- ①「参加申込はがき」利用
- ②URLかQRコード(写真・左)から申し込みフォームに直接アクセスしてください。(4月30日(火)より受付開始)
- その他 募集締め切り連絡や不測の事態などへの対応は同窓会ホームページでお知らせします。
- 企画運営委員会 本部 加島篤人(同窓会常任幹事・高34)、高橋篤(高37)、望月勝(高41)、新井義幸(高42)、金子保夫(事務局長・高25)、野口孝(事務局次長・高25)
- 委員 在京・各地区初雁会推薦者、有志

